

霧の波止場 (1938)

LE QUAI DES BRUMES
PORT OF SHADOWS

メディア 映画

ジャンル ロマン스 ドラマ 犯罪

製作国 フランス

色彩 B&W

時間 90分

初公開日 1949/12/30

公開情報 S E F = 東宝

【解説】

戦後爛熟を迎えるカルネ＝プレヴェール作品に比べれば、いかにもこぢんまりとしているが、同じギャバン主演の「望郷」などと違って、彼のキャラクターに酔うだけでは終わらない、本物の感動とフランス的“エスプリ”のこもった名作。港町ル・アール外人部隊の脱走兵ジャン（ギャバン）はネリー（モルガン）と知り合う。彼女は名付け親のザベル（シモン）にしつこくつきまとわれて困っていた。波止場の小屋にしけ込んだジャン。生きることに嫌気のさしていた仲間の画家ミシェルは彼にパスポートを残して自殺する。お蔭でベネズエラ行きの手はずをととのえたジャンは出航の前日をネリーと共に過ごす。町でヤクザのルシアン（ブラッスール）に絡まれ、逆に彼を叩きのめす。故国で最後の夜はネリーと共に。そして、ネリーに食い下がるザベルを振り払ったジャンだが、昨日の仕返しに来たルシアンの凶弾に倒れる……。モルガンがブラッスールがシモンがギャバン以上に素晴らしく、何よりプレヴェールの台詞がこの単純な悲恋ものに詩的生命を吹き込んでいる。

【クレジット】

監督	マルセル・カルネ	Marcel Carne	
製作	グレゴール・ラビノヴィッチ	Gregor Rabinovitch	
脚本	ジャック・プレヴェール	Jacques Prevert	
撮影	ユージン・シュフトン	Eugene Schuftan	
音楽	モーリス・ジョーベール	Maurice Jaubert	
出演	ジャン・ギャバン	Jean Gabin	ジャン
	ミシェル・モルガン	Michele Morgan	ネリ
	ミシェル・シモン	Michel Simon	ザベル
	ロベール・ル・ヴィガン	Robert Le Vigan	画家
	ピエール・ブラッスール	Pierre Brasseur	ルシアン
	レイモン・エイムス	Raymond Aimos	ヴィッテル
	エドゥアール・デルモン	Edouard Delmont	パナマ
	ルネ・ジェナン	Rene Genin	医者
	マルセル・ペレス	Marcel Peres	運転手